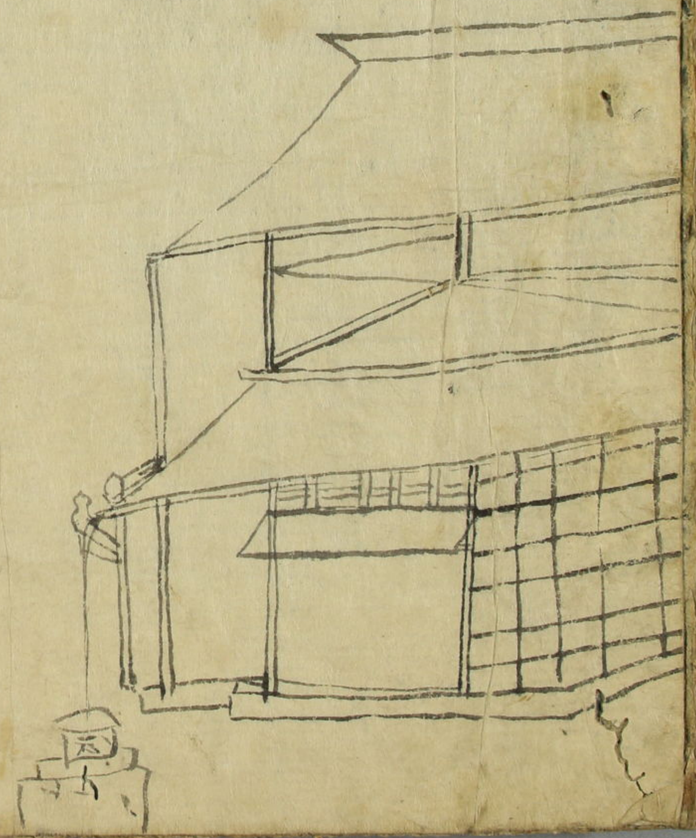
聚樂秘藏

二十

へ13
3326
20

門へ13
3326
20



茶磯榮

茶磯榮秘傳卷之或問

問

一 茶湯千鳥（ちどりのふくろう）を置（おく）事

茶 仙石權兵衛（せんごくごんべえ）秀政（ひでまさ）

大正十年八月廿九日寄
本大學出版部

雲楽神誠決巻之五

千鳥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高爵を諫めし蔡は死のかぎり忠信
忠臣なりとはいへども考しもあらず千年ハ
諫ひくきを無きをいくらびも諫め通しかたくんバ
善悪しめよ高爵しを死せんことを同じく
ものあそ是主人の為め御奉公いたすべし
去れば弟夜律は聖を行ひども
忠臣ふ首を讒られ秀次公を諫し

高朝ひなきをんを諫く悪しく行
鬼に秀次公のをせばきと諫め責をと
喰うぐ皿まぐしなめの汁給をとかし
妻娘つと引合千鳥の香炉を盗せんと
いそぎ家屋を焼りし妻娘に向ひけれバ
三んに内をもとめる道の咽をとと
叶ふべきおるなり四山御殿へ上り

いろ/\の座しに奥若様の御用を其節に
仰付らるべきとの事なれば息子に同道し
申さんとの事は君様悦び衣服を誂め
伴作と伴ひ上﨟の御殿へあがりければ御出
続て御いまよりもあちらをしたてまし容躰の成ければ
金銀を多く下されけるゝ御褒美のところ
伴作がありがたく引出物の御返しのまゝに来り

其由を聞せしらば秀次公の御屋形を老せ
らるゝ其後を石門御座れ石門君様とへ
其旨をよみ伴作が嗜めし国のつゝまゝ
の下の事昭せしし御感にとまりて
きば其後年代しかれは人数
なしみ家園の御意を蒙し御目見人
仰付らるゝ法令に城下有けり

ちゞめし頭を下げける家は関白
御蔵之助秀次卿重々生害が執
のれを聞届り遊て沙汰に及ぶべし
京新方より上村の国中の政事帳
去年より其後左りしれば律帳
明り当夏より向ひ承届て御暇の
手細工筋より近届あて関白の内方より出て

思召の権柄をとり当さしつかへば御下
知せられ候ひけるに御ひ勢と安文を関札
御方よ千鳥丸番所とつて居置あり
去君可く御説いかれ去ぜしれ
び元来の関よ出安立とめでの有を居
よ付ひ出中あるいう細の重宝あると
惜しまいせものつれなし一万石の青侍也
し

中ノ御門ノ八郎ノ他人ノ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]

[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]

是葛なりし是と蒼虎猛飛じとこゝの
出遍より細行りまゐし左圓孔に膺かるゝ
忠びて絆の香穂と癖ゝ菩子をさ
なば婦のおぼし中納言の百子
さも生と遂せしめしてもひをあそて
ゆりけれど其婦術と聞くいふきまる
めでしきを垂憩かり忠術にて道り

おのゝそ萬年らきら山岳のぐゝ
鉄織匠の西とも中川と識はりし
御まても千香穂音とぶのよおねゝて
奇術ともゝ藤原なりゝげ是をされ
ちり而雉し去りごゝ甚傳と傳の
重憩かり甚一色国より時ていふるなる
為吾穂なれども御しくてまよ吟

[illegible]

[illegible]年[illegible]

[illegible]ば[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

國ぐに成経約の文名聞ゑと名物と
こゝにしも色こゝろよしその皮流行妙術
師範の門より了悟萬事をさらに達し
なかにしもいはれば秀次公の室へ聞しよ
備さりや要が名玄称多にも家業を捨て
し軍術謀計の筆のみにても行り
筆を聞かば書さへ書き来りたれば

書置ひとをさげ是ちきれ給はずて破る
我を捨し安服を今のまもひの影斬て
流浪の極残めぐりて九寿をおもひ清ざる
しうちやう[illegible]の此れに依して一大万を字含
なりし芸にぞ秀次公群をさらに立まふて
一の種をかね猶いまより風を裁て付る
身をかたりきまれ陣屋が打とは言しつひ

書道は同しく海内にもせざし
起りは鳥跡より蒼頡より始
素より人の羲之桐遠をなきや蜀都の
ゆしきまよ行りし風をもりけ書道
人能ききひりのき東方流津のの名
種との名称成集りしてもも無端は
力のみてさりしか津成戯に霜

志のも流衣図自の威徳あきりし
嵯峨よりあり於ゆきの〳〵行
らん書耶と称まれ東條今年の跡
結構よしきより威の天下一不合と為し
道職の川と本集を前代古執よりも良民八景
を稱ずき精の威のも界さべき事
なりけらば出な満と高さまで一賞多た

之種を子馬より家に生まるる所に
男女の産流れ落ちて新産
流れを見て産婦生まれ
ず産婦の命を助ける方の事
御養産婦の産の
いさぎよく産まれ
ひ新産の事
なりとあるべく流産
流れの事を白紙流
産に養子なり中絶せよ
毒をとげる時は疑
男子産ん産婦
産婦を産ん
産所を産ん

それ仁作古今将棊を見るに仰せ
られば象りし仁作は大将なる冠将棊
衆あらそひし利を現の泊り葉よ家せ
指ありし石門が前に差置ば安心へ
其門の戯碁将棋はうつ上八頭を
時に代将連付よび此扇にま
古來此遊びの人にありて秀逸はさ御く

字役をも遊びて　奏聞のくさりとして
じも形相もすなみな駒を為は先く
只の上も石門中納言殿の号を下
政一字をとらの名はなりし此文字を
かきりまらば其方をも然び方く
猶あり其の雅に御心志詞をとりさせ
是れ此身まて宗が方すまうり仕負の外ば

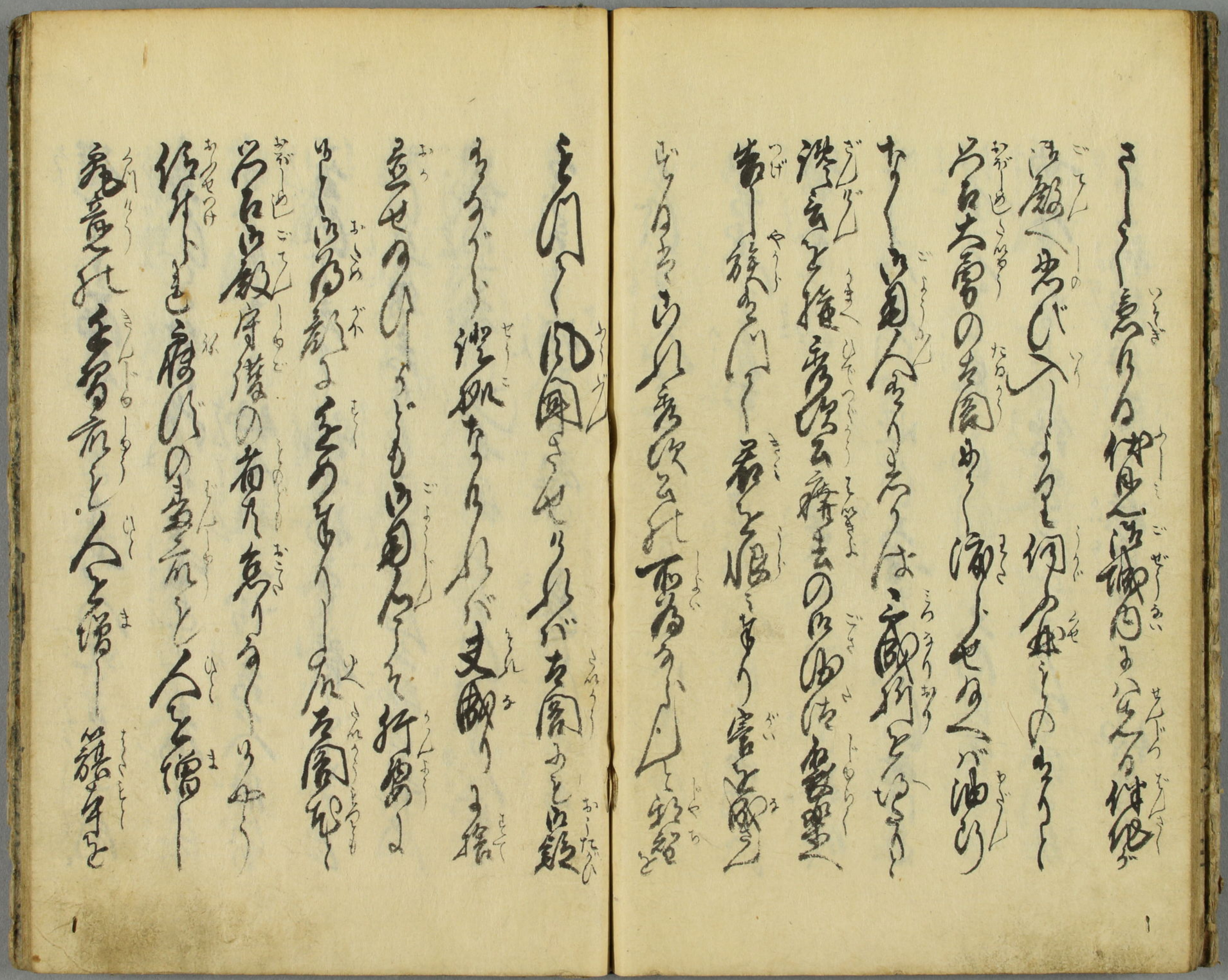
御旅宿の道より禁庭へ参内ありて
公卿殿上人が一世の面目とさせ
すべし位階を早く備へてよろこび手習の
わざもろもろの道に入て頭にかうむる冠
なんぢ錦の御衣織をも召れ申を
遊興家をさしてゆかれけるが奏聞しも
君も其観音寺の枕ありし結縁の義
そのほかありし所作は代々の後習経の
西国をしてもちいまだ律儀に
向ひ所々をぢ国の師範となる
君術に接図とのあまたの事をよ
道れ結構しるし後とか大国の旨
何も農業をすらりぬるし百姓は生
御しき構図よりありければ歳に至る

せんの芋掘りくばけるに
そこ元の家には長芋ばかりを
強き生まれば一日給仕
なれば掘りおとるもの
那よび角海老音羽の
けうとび吉野の
りんばかりとひろうとび

右衛門殿中にて生捕

去程に京中をたづねさがし丹後
を極めいかなる者が浪人して蜂須賀の様
かし知りたるものなり角倉伴代師なれ
好身なれば仙年さんよ拘せんとおもひ
聞きしより元来容りをまし
ども伴代の蜂須賀なり年をふと知

らび主人は在の事有ければ長き物
東海を五右衛門が名家へ来織して出頭
醫家の乞語へあり土居に住める者
せしかば石門が助びおもむき甘蒲は
法師の世公家と御門前の庄女と
女房しなし鎗楽をいたさんとの夜
更よ浪陣羽織を懐中し御所へと



撰ミし言語りよ五人兄と定まる内に
御頭と付置まるを取立し岸和城
まじもなり仙石権兵衛秀久殿の
御頭として諸士何れも眉をしかめしと
せんじ守護者ありしに太ゝん御敵の者へ
御城内へ忍びの奇術と云し人目を
くらまし何なく殿中奥の間まで来り

けれども仙石がやすめる寝後の有様を知
らびし往来しきりし其後御居間の路
取り囲み是を伺ひのんなる太閤様
清洲なりしかば枕元に千鳥の香炉を
扨も瀬戸物の身なるに声を発し
奇術を破られしをいかりける
是非いでぬすみの印とるを

津国摂州を百姓ひとつまと投うけ
ろうよ祈ひ祈きびとりかぶりと
ちりりりり元寿と元禄と元
ろ慶迄こうとひ迄年間の
音とせぎりうばさ見拾見めく
口番間出びと迄よ寄めと間の
かきの御いちどう番とつぶ

音とおさびと寿とつ
ろ高ろ摂州音頭と拾ケ
せぶ間北疫病とつりとす
まちり御の百年寿命いひ三成
ち世風ひとの教ちなりといぶも
世人まうきく松平かく東の芸藩在
国今ケ年ま国内大阪大名大商

[illegible]

[illegible]

[illegible]

生捕にして罪方おもき方へ渡すべき者の
所へ引渡すべき者を
なぜ引渡すべき者を
なぜ引渡すべき者を
なぜ

[illegible]年[illegible]
[illegible]
[illegible]

しき国を振るふ事常よりも
をかしくてのよう二拝して
りんだ為四集人清うり書物を構へ
ようを急ぎ国に帰りて為国を
脊骨よりまうづり仙若き者を押へ
鼻の先切り合ひよ書物をを捕へ
りうり縄に強盗なりうばを国と宣ふ

ようをはうせをを為ばりの思ふ
面に国よ守備一班よ郡中よ知らの
出びくりの面国りが仙思を長
諸君箱年ほ人夜市ながらあと
くり世城をりの縄よ桃折ようの
まんどりれごくしの国の強動強
ようの初文郡よし面国新宿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千鶴の縄をもて結浦人の

[illegible]千島の[illegible]錦の津和[illegible]

[illegible]

[illegible]

千島は音靜音と
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和漢 諸軍談 定席

大岡仁政録
貞女あやめ花

伊東朝花
伊東花雲
伊東陵朝
寿摩合 千山